



好学愛知 自律敬愛 質実剛健

鶴丸イ言

鹿児島県立鶴丸高等学校

〒890-8502 鹿児島市薬師二丁目1番1号

TEL 099-251-7387 FAX 099-255-3433

http://www.edupref.kagoshima.jp/sh/Tsurumaru/top.html

12月の行事予定

12月	
1月	卒業考査(2日目) 中間考査(1日目)
2火	卒業考査(3日目) 中間考査(2日目)
3水	卒業考査(4日目) 中間考査(3日目)
4木	
5金	1・2年クラスマッチ
6土	悠学講座 スクールカンセリング⑤
7日	
8月	全校朝会
9火	
10水	学校安全の日 ダンス発表会(7限)
11木	
12金	1年郷土を知る学習
13土	
14日	
15月	学年朝会
16火	
17水	
18木	
19金	
20土	悠学講座 スクールカンセリング⑥ 1年料理講習会 職業フォーラム
21日	
22月	全校朝会 第7回職員会議(45分×7限)
23火	天皇誕生日
24水	大掃除
25木	冬季悠学講座
26金	冬季悠学講座 学年集会 実力考査時間割発表
27土	センター
28日	
29月	休業日
30火	
31水	

意志あるところ、道は開ける
教頭 神田芳文

二〇〇八年は、日本人のノーベル賞受賞者が四人も出、日本の物理学や化学の世界にとって、画期的な年となったと言える。いずれも長年にわたる研究の成果が認められたものであるが、その中の一人、ノーベル化学賞を貰った下村脩教授の言葉に「何でも好きなことがあったら、どんだんやりなさい。しかし、難しいからといって途中で止めてはいけません。」「というのがある。発光生物についての研究を地道に黙々と続け、緑色蛍光タンパク質の発見に結びつけた人の言葉であるだけに、その言葉は重い。

競馬の世界には新鋭が現れた。その人の名は、三浦皇成。武豊騎手がそれまで持っていた新人最多勝記録の六九勝を抜き、現在も記録を更新中である。彼の「競馬に迷いはない。」「という言葉も勝負師としての一面を垣間見るようでおもしろい。

物事というのは、これをやると決めたなら、その目標をそこそこにはなく、迷うことなく「妥協せずにやりきる」という決意がある。「継続は力」であり、継続の燃料は「情熱」である。情熱を持ち続けることができれば、失敗は恐れるに足りない。情熱なき成功よりも、情熱ある失敗の方が何倍も価値がある。

ところで、三年生のこの時期になると、一人一人の心の中に志望に対する「不安」と「焦り」と、「迷い」が芽生える頃である。この三つは誰もが持つものであるが、中には不安等に耐えられずに、自分の第一志望を変えてしまおうとする者も出てくる。志望を下げて、安心を得よう

ということなのだろうが、こういう大きな壁にぶつかるとは、長い人生の中でもそう多くあることではない。若い時期に勇気を持つて、大きな壁に果敢に挑戦することがあってもいいのではないだろうか。いい意味での開き直りも必要かも知れない。たとえ失敗することがあったとしても、まさか命までは取られはすまい。大したこともせず、山の裾野で満足するの。それとも、きついでれどひと踏ん張りして山の中腹を目指すのか、或いは、さらにもうひと踏ん張りして頂上(第一志望)を目指し、三百六十度のパノラマを見るのか。今がその正念場である。山の頂上と、裾野や中腹とは見える世界も変わってくる。すなわち、それからの人生そのものが大きく変わり得るのである。これまでも多くの先輩たちが歯を食いしばり、時に涙を見せながら等しく通ってきた道である。だからこそ、第一志望を変えずに合格した時の喜びは数倍、数十倍にもなっている。自分に戻ってくるし、仮に、失敗することがあっても、後悔が全くないとは言わないが、最後まで自分の志望を貫き通すのであるから納得がいくのである。

敵は外にあるのではなく、自分の内側にあることを常に肝に銘じて、それぞれ自分の目標に向かってひたむきに突き進み、安易な妥協だけはやめてもらいたい。

一・二年生もこのことを頭に入れ、一年後、二年後先を見据えた地道な学習活動を進めてもらいたい。

文化講演会

十一月四日、女性初のスポーツキャスターとして活躍された木場弘子氏を講師にお招きして文化講演会が開催された。「私たちの未来のために考えたい、エネルギー・環境の」という演題で、農林水産省・食料自給率向上推進委員会や経済産業省・総合資源エネルギー調査会の委員としての高い見識をもとに、地球温暖化やエネルギー・食料問題についてわかりやすくお話しくださった。日本の食料自給率は40%と先進諸国の中でもとりわけ低く、エネルギー自給率にいたってはわずか4%しかないという事実にも多くの生徒たちが驚嘆していた。その一方で食料輸入国でありながら多くの食糧物がゴミとして捨てられている現状や必要以上のエネルギーの消費とそれに伴う二酸化炭素排出の問題など現在の私たちが抱える問題についても言及された。私たち一人ひとりが問題意識をもつてできることから始めていくことが大切であるという話もあって、また後半は、千葉県浦安市教育委員会の委員としての見地にスポーツキャスターとしての経験を織り交ぜ、コミュニケーションについてもお話された。スポーツニュースがいかにして制作されているかやインタビューに臨む際の心がまえなど普段なかなか耳にすることができない貴重な経験談も聞くことができた。

桜島ロードレース大会

十一月十四日(金)、桜島ロードレース大会が行われた。対象は一・二年生で初めてロードレースに挑む一年生にとっては、完走し、自分の力を試すこと、二年生にとっては昨年度よりもレベルアップすることが目標である。生徒たちは、日頃体育の授業や部活動を通して培ってきた

力に生徒は陶酔し、三年生にとっては、日頃の受験勉強をしばし忘れてリフレッシュする良い時間となったようだ。

十月三十日(木)、毎年恒例の「三年生を激励する会」が行なわれた。今年、宝山ホールにてNHK交響楽団の方々に賞する機会を鑑賞する機会に恵まれる、一流の奏者が奏でる音色に生徒は陶酔し、三年生にとっては、日頃の受験勉強をしばし忘れてリフレッシュする良い時間となったようだ。

このロードレース大会で学んだことを、これからの学校生活に活かすさらに充実した生活を送ろう。

三年生を激励する会

十一月十七日(月)、LHRの間に今年度二回目の集団読書会が開かれた。今回の対象は一・二年生であり、体育科推薦のプロ野球選手・松井秀喜選手が書いた「不動心」についての読書会が行われた。当日は、生徒それぞれが書いた感想文をもとに委員長が中心となり、「心の構えについて」「松井選手から学んだこと」など各クラスそれぞれのテーマにそって討議が進められた。あるクラスの報告書からは、「クラスの皆が、「不動心」から、自分の進路選択や、人生において大切なこととは何かということ、いつもとは違う角度からゆつくりと考える良い機会となったようだ。」という感想が得られた。

集団読書会

十一月十七日(月)、LHRの間に今年度二回目の集団読書会が開かれた。今回の対象は一・二年生であり、体育科推薦のプロ野球選手・松井秀喜選手が書いた「不動心」についての読書会が行われた。当日は、生徒それぞれが書いた感想文をもとに委員長が中心となり、「心の構えについて」「松井選手から学んだこと」など各クラスそれぞれのテーマにそって討議が進められた。あるクラスの報告書からは、「クラスの皆が、「不動心」から、自分の進路選択や、人生において大切なこととは何かということ、いつもとは違う角度からゆつくりと考える良い機会となったようだ。」という感想が得られた。

音楽鑑賞の後、一・二年生から三年生に手作りの激励カードと合唱のプレゼントがあった。目標に向かってひたむきに頑張る三年生の姿は一・二年生にとって、何よりの道しるべである。三年生の健闘を心から祈りたい。

「不動心」を通して

十一月十七日(月)、LHRの間に今年度二回目の集団読書会が開かれた。今回の対象は一・二年生であり、体育科推薦のプロ野球選手・松井秀喜選手が書いた「不動心」についての読書会が行われた。当日は、生徒それぞれが書いた感想文をもとに委員長が中心となり、「心の構えについて」「松井選手から学んだこと」など各クラスそれぞれのテーマにそって討議が進められた。あるクラスの報告書からは、「クラスの皆が、「不動心」から、自分の進路選択や、人生において大切なこととは何かということ、いつもとは違う角度からゆつくりと考える良い機会となったようだ。」という感想が得られた。

鼎・トントンカサガサ防ぎよう

集団読書会は生徒たち自身が討議の柱を立て、内容を深めていくという鶴丸高校ならではの行事である。一人一人が積極的に、よりハイレベルな内容の討議を目指して、これからは真剣に取り組んで欲しい。

朝夕の冷え込みも急に厳しくなり冬の訪れを感じるようになってきた。風邪やインフルエンザにからぬよう、次のことに留意してしっかりと予防しましょう。

- ① 手洗い・うがい、マスクをする。
- ② 教室や部屋の換気をする。
- ③ 十分な睡眠をとる。

北朝鮮人権侵害問題啓発週間

平成18年6月、国民の間に広く拉致問題その他北朝鮮当局による人権侵害問題についての関心と認識を深めることを目的として、「拉致問題その他北朝鮮当局による人権侵害問題への対処に関する法律」が施行され、同法第4条で毎年12月10日から16日までの一週間を「北朝鮮人権侵害問題啓発週間」とすると定められています。